

2021/8/29-2

(うと Q 世話し まずは 70 でよし)

弊社のモットーは「Never give up」です。

ですが「頑張りの極地」みたいな「Never give up」

と

自分のモットーである

「ぶらり散歩旅」みたいな「兎に角行ける処まで行ってみようよ」

の両者。

一見全く性質が異なる様な 2つの文言ですが実は弊社のそれ、自分のモットーの「従業員向け言い換え」版なのです。

会社のモットーが自分のモットーの上にある訳はないので、当然より深いモットーは後者の「兎に角行ける処まで行ってみようよ」です。

しかしそれでは外国人従業員に対してインパクトに欠け説明もいりそうなので世界各国何処でも一発で理解できそうな

「Never give up」

に置き変えただけ。

上述の「説明が必要になりそうな」のその説明ですが、要するに

Never give up に対して「エジソンを更に軟化した思考」の事なのです。

益々分からなくなったかもしれませんが、

エジソンは

「実験に 100 回失敗したら後もう一回だけやってみよう。それが成功の秘訣」という様な意味の事を申しておりました。

思うにこれは 101 回目に成功が待っているからと言う意味ではなく、101 回目をやっただめだったらその先どうなるのか。次の 102 回目をやって又だめだったら更にその先はどうなるのか？つまり結果が出るまでやり続ける。100 回目はその通過点に過ぎない、と言う意味だと考えております。

ではそのエジソンと自分の思考の差は何なのか？

何故わざわざ「エジソンを更に軟化した思考」と名付けたのか？

それは、自分の場合「成功」や「ゴール」明確な「目的」さえ置いていないからです。

何処に行くか分からない。どうなるのかも分からない。しかし兎に角駒だけは進める。今手近にある物の力を利用してその範囲で進める。目的達成の為に無理な道具の調達はしない。

そんな風に駒を進める理由は

「その先に何があるのか？どうなっているのか？知りたい、見てみたい。

或いはそれが来たらどうかわすか？どう切り抜けるか、試してみたい。

はたまた、もし自分の仮説を実際に推し進めるとどういう結果が出るのか？も試してみたい」

からなのです。

しかしそうなるとう冒頭の「Never give up」から位相差が益々広がってしまう事に気づきま

す。それこそ「ガッツ!!」で岩盤に正面切って体当たりするのと「好奇心」から夜の墓場に肝試しに行く位の違い。

全く位相が違う。

それもその筈

「元々の原動力が決意や意志ではなく探検、実験好きの子供の好奇心」

だからです。

しかし幾ら何でも「子供の興味」で「大の大人」に殺生与奪の刃を振うぞとは言えません。

又、従業員達は自分の事を勝手に「鉄人ルーテーズ」か「人間機関車ザトベック」に見立てている節も是ありで

「この際相手の分る範囲のモットーに止め置いた方がよかろう」

となりましたが、基本姿勢や概念は正に正反対。

「好奇心の連続が、外からは never give up に見える」

その好奇心の部分は全く触れぬ事にし分り易さを最優先。

まずは 70 でよし。

外した部分は後日折を見て皆へ、の積りです。